

厚生労働大臣 殿

宮崎大学医学部附属病院長

高崎 真弓

## 宮崎大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成19年度の業務に関して報告します。

## 記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	34人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→ 別紙参照(様式第13)

## 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	187人	160人	299.0人	看護業務補助	13人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	5人	5人	9.0人	理学療法士	5人	臨床検査技師	29人
薬剤師	23人	0人	23.0人	作業療法士	2人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	3人	検査その他の	0人
助産師	18人	1人	19.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	452人	34人	479.5人	臨床工学技士	5人	医療社会事業従事者	4人
准看護師	0人	2人	1.5人	栄養士	0人	その他の技術員	7人
歯科衛生士	1人	1人	2.0人	歯科技工士	1人	事務職員	63人
管理栄養士	4人	2人	6.0人	診療放射線技師	22人	その他の職員	38人

(注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。

- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

## 8 入院患者、外来患者及び調剤の数

## 歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	554.6人	13.7人	568.3人
1日当たり平均外来患者数	707.5人	31.2人	738.7人
1日当たり平均調剤数		582.0剤	

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を曆日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ曆日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・無	人
膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	有・無	人
凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・無	人
胎児心超音波検査	有・無	人
インプラント義歯	有・無	5人
顎顔面補綴	有・無	人
顎関節症の補綴学的治療	有・無	人
経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	有・無	人
人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・無	人
光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・無	人
経皮的レーザー椎間板減圧術	有・無	人
造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・無	人
スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・無	人
CTガイド下気管支鏡検査	有・無	人
先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・無	人
筋強直性又は筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・無	人
SDI法による抗悪性腫瘍感受性試験	有・無	人
三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・無	人
HDRA法又はCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験	有・無	人
子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	有・無	人
腹腔鏡下肝部分切除術	有・無	人
悪性腫瘍に対する陽子線治療	有・無	人
エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・無	人
成長障害のDNA診断	有・無	人
門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	有・無	人
乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・無	人
声帯内自家側頭筋膜移植術	有・無	人
骨髄細胞移植による血管新生療法	有・無	人
ミトコンドリア病のDNA診断	有・無	人
鏡視下肩峰下腔徐圧術	有・無	人
神経変性疾患のDNA診断	有・無	人
難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・無	人
重粒子線治療	有・無	人
脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・無	人
31燐-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	有・無	人
神経芽腫のRNA診断	有・無	人
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・無	人
重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有・無	人
骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	有・無	人
脾腫瘍に対する腹腔鏡補助下脾切除術	有・無	人
低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・無	人

先進医療の種類	届出受理 有・無	取扱い患者数 人
悪性脳腫瘍に対する抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・無	人
Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断	有・無	人
エキシマレーザー冠動脈形成術	有・無	人
活性化Tリンパ球移入療法	有・無	人
家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・無	人
膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・無	人
三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	有・無	人
泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・無	人
HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	有・無	人
頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによるCT透視下の経皮的椎間板減圧術	有・無	人
ケラチン病の遺伝子診断	有・無	人
隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・無	人
末梢血幹細胞による血管再生治療	有・無	人
末梢血単核球移植による血管再生治療	有・無	人
一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有・無	人
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・無	人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・無	人
超音波骨折治療法	有・無	人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテーラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有・無	人
非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	有・無	人
X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・無	人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・無	人
膀胱水圧拡張術	有・無	人
色素性乾皮症に係る遺伝子診断	有・無	人
先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	有・無	人
歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	有・無	人
セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	有・無	人
腹腔鏡下直腸固定術	有・無	人
骨移動術による関節温存型再建	有・無	人
肝切除手術における画像支援ナビゲーション	有・無	人
樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法(腫瘍抗原を発現する消化管悪性腫瘍)	有・無	人
自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・無	人
自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・無	人
リアルタイムPCRを用いた迅速診断	有・無	人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・無	人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	有・無	人
先天性難聴の遺伝子診断	有・無	人
フェニルケトン尿症の遺伝子診断	有・無	人
培養細胞による先天性代謝異常診断	有・無	人
腹腔鏡下子宮体がん根治手術	有・無	人
培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	有・無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
カフェイン併用化学療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
胎児尿路・羊水腔シャント術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
内視鏡下甲状腺がん手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人

(注)1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

## 2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱い患者数	疾 患 名	取扱い患者数
・ベーチェット病	67 人	・モヤモヤ病(ウィルス動脈輪閉塞症)	46 人
・多発性硬化症	22 人	・ウェグナー肉芽腫症	7 人
・重症筋無力症	63 人	・特発性拡張型(うつ血型)心筋症	30 人
・全身性エリテマトーデス	211 人	・多系統萎縮症	24 人
・スモン	2 人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	3 人
・再生不良性貧血	13 人	・膿疱性乾癬	11 人
・サルコイドーシス	62 人	・広範脊柱管狭窄症	8 人
・筋萎縮性側索硬化症	21 人	・原発性胆汁性肝硬変	30 人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	150 人	・重症急性胰炎	9 人
・特発性血小板減少性紫斑病	32 人	・特発性大腿骨頭壞死症	60 人
・結節性動脈周囲炎	29 人	・混合性結合組織病	34 人
・潰瘍性大腸炎	183 人	・原発性免疫不全症候群	9 人
・大動脈炎症候群	18 人	・特発性間質性肺炎	23 人
・ビュルガー病	10 人	・網膜色素変性症	26 人
・天疱瘡	19 人	・プリオン病	2 人
・脊髄小脳変性症	27 人	・原発性肺高血圧症	7 人
・クローン病	139 人	・神経線維腫症	22 人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	3 人	・亜急性硬化性全脳炎	0 人
・悪性関節リウマチ	6 人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	2 人
・パーキンソン病関連疾患	100 人	・特発性慢性肺血栓塞栓症(肺高血圧型)	5 人
・アミロイドーシス	13 人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	2 人
・後縦靭帯骨化症	92 人	・副腎白質ジストロフィー	1 人
・ハンチントン病	1 人		

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## 3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	(1) 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	週 2 回以上	
剖 檢 の 状 況	剖検症例数 43 例	剖検率 29.3 %

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
アドレノメデュリンの展開医療	北 俊弘	第一内科	5,000,000	(補) 委 日本学術振興会
強力な昇圧作用を有した新規生理活性ペプチドの基礎的研究	北村 和雄	第一内科	3,800,000	(補) 委 日本学術振興会
アドレノメデュリンと関連ペプチドによる循環制御機構の解明と診断・治療学的応用のための基礎研究	北村 和雄	第一内科	1,800,000	(補) 委 厚生労働省 循環器病委託研究
アドレノメデュリンと関連ペプチドの特徴的作用の解析と治療応用	加藤 丈司	第一内科	1,100,000	(補) 委 日本学術振興会
副腎髓質で産生される生理活性ペプチドの系統的探索	北村 和雄	第一内科	1,000,000	(補) 委 日本学術振興会
プロアンジオテンシンー1 2 の単離精製および役割と生成変換機構の解明	永田さやか	第一内科	1,290,000	(補) 委 日本学術振興会
ウイルス発がんの機序解明と予防・治療法の創出に関する研究	下田 和哉	第二内科	1,454,545	(補) 委 (財) 宮崎県産業支援財団
難治性ニューロパチーの病態に基づく新規治療法の開発	中里 雅光	第三内科	550,000	(補) 委 国立精神・神経センター
ペプチドーム解析を応用した脳機能調節に作用する新規神経ペプチドの探索と機能研究(科学研究費補助金・特定領域研究)	中里 雅光	第三内科	1,600,000	(補) 委 日本学術振興会
摂食調節に機能する新規ペプチドの同定と機能解析(科学研究費補助金・基盤研究B)	中里 雅光	第三内科	6,000,000	(補) 委 日本学術振興会
グレリンの慢性下気道感染症における病態生理学的意義と臨床応用(科学研究費補助金・萌芽研究)	中里 雅光	第三内科	3,300,000	(補) 委 日本学術振興会
新規ペプチドオベスタチンおよびグレリンの肥満に対する病態生理学的意義の解析(科学研究費補助金・基盤研究C)	上野 浩晶	第三内科	1,700,000	(補) 委 日本学術振興会
呼吸器感染症におけるデフェンシンの機能解析と臨床応用(科学研究費補助金・基盤研究(C))	芦谷 淳一	第三内科	2,100,000	(補) 委 日本学術振興会

(注)

- 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印を付けた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
高齢者医療とQOL改善に対するグレリンの臨床応用とその基盤的研究（科学研究費補助金）	中里 雅光	第三内科	2,200,000	○ 補委 厚生労働省
アミロイドーシスに関する調査研究（科学研究費補助金）	中里 雅光	第三内科	1,200,000	○ 補委 厚生労働省
捜査への心理学応用に関する研究（共同研究）	石田 康	精神科	420,000	○ 補委 宮崎県警察本部刑事部科学捜査研究所
L-DOPA慢性投与に伴う脳内転写調節因子発現に関する神経薬理学的研究	石田 康	精神科	1,700,000	○ 補委 科学研究費補助金
母仔分離ストレスモデルの酸化ストレス脆弱性とその分子機構の解明	植田 勇人	精神科	1,600,000	○ 補委 科学研究費補助金
βアミロイド蛋白オリゴマーによるフリーラジカル産生と神経毒性発現機序に関する研究	林 要人	精神科	1,300,000	○ 補委 科学研究費補助金
抗うつ薬を用いた疼痛制御に関する行動薬理学的研究	武田龍一郎	精神科	1,000,000	○ 補委 科学研究費補助金
物体についての記憶処理における嗅周皮質内シグナル伝達機構の解明	安部 博史	精神科	900,000	○ 補委 科学研究費補助金
グルタミン酸輸送蛋白によるGABA機能修飾過程とてんかん原性獲得の分子機構の解明	長友 慶子	精神科	1,300,000	○ 補委 科学研究費補助金
関節軟骨変性・リウマチ関節炎に関する新展開（アドレノメデュリンの作用、臨床作用）（科学研究費補助金・基盤研究(C)）	帖佐 悅男	整形外科	650,000	○ 補委 日本学術振興会
スポーツ外傷、傷害の病態解析ースポーツメディカルサポートシステムの構築	帖佐 悅男	整形外科	34,969,000	○ 補委 文部科学省特別教育研究経費
高悪性度骨軟部肉腫に対するカフェイン併用化学療法の臨床使用確認試験	帖佐 悅男	整形外科	1,000,000	○ 補委 厚生労働省
胎児脳機能リズム形成と神経学的発達との関連について（科学研究費補助金・基盤研究C）	池ノ上 克	産婦人科	2,340,000	○ 補委 日本学術振興会

## (注)

- 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印を付けた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
胎内サイトメガロウイルス感染症のハイリスク群抽出法と児の予後にに関する研究(科学研究費補助金・基盤研究C)	金子 政時	産婦人科	2,340,000	補委 日本学術振興会
分娩中のヒト胎児血圧測定と児脳障害予防に関する臨床的・基礎的研究(科学研究費補助金・基盤研究C)	鮫島 浩	総合周産期母子医療センター	2,210,000	補委 日本学術振興会
乳幼児死亡と妊産婦死亡の分析と提言に関する研究(科学研究費補助金)	池ノ上 克	産婦人科	1,000,000	補委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
VWF-CP遺伝子導入による、血管内ストンプ挿入術後の血栓性動脈閉塞の予防	田村 正三	放射線科	2,080,000	補委 日本学術振興会
経皮的肺ラジオ波凝固療法後の治療効果判定に関する基礎的研究	中田 博	放射線科	1,300,000	補委 文部科学省 科学研究費補助金
下肢深部静脈血栓症の予防—遺伝子導入による試み	古小路英二	放射線科	1,300,000	補委 文部科学省 科学研究費補助金
局所麻酔薬の使用依存性ブロックに関する研究	高崎 真弓	麻酔科	1,100,000	補委 日本学術振興会
経皮的心肺補助装置の長期使用に対する再評価	押川 满雄	集中治療部	1,400,000	補委 日本学術振興会
局所麻酔薬中毒による痙攣に関する研究	笠羽 敏治	麻酔科	2,300,000	補委 日本学術振興会
麻酔薬のオレキシン放出に及ぼす影響	白阪 哲朗	麻酔科	1,800,000	補委 日本学術振興会
Aeromonas属細菌の產生するヒアルロンダーゼ遺伝子の同定と重症化機序の解明	松岡 博史	集中治療部	1,200,000	補委 文部科学省 科学研究費補助
悪性グリオーマにおける免疫制御機構の解明と自殺キメラ分子を用いた腫瘍免疫賦活療法	竹島 秀雄	脳神経外科	3,000,000	補委 日本学術振興会
膠原病における新規疾患特異的マーカーの検索	黒木 昌幸	膠原病・感染症内科	1,700,000	補委 文部科学省 科学研究費補助金

(注)

- 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印を付けた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 高度医療技術の開発及び評価の実績

### 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者名	所属部門
Thrombosis Research	Expression of interleukin-18 in coronary plaque obtained by atherectomy from patients with stable and unstable angina.	Imamura T	第一内科
Vascular Health and Risk Management	Combined use of brain natriuretic peptide and C-reactive protein for predicting cardiovascular risk in outpatients with type 2 diabetes mellitus.	Tsuruda T	第一内科
Internal Medicine	Outcome of ANCA-associated primary renal vasculitis in miyazaki prefecture.	Fukudome K	第一内科
Nephrol Dial Transplant	Risk factors of the progression of abdominal aortic calcification in patients on chronic hemodialysis.	Yamada K	第一内科
Leukemia Research	Tyk2 mutation homologous to V617F Jak2 is not found in essential thrombocythaemia, although it induces constitutive signaling and growth factor independence.	Shide K	第二内科
Haematologica	Perforin gene mutations in adult-onset hemophagocytic lymphohistiocytosis.	Shimoda K	第二内科

- (注) 1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2. 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度医療技術の開発及び評価の実績

### 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者名	所属部門
Blood	Expression of Tyk2 in dendritic cells is required for IL-12, IL-23, induction of Th1 cell differentiation.	Shimoda K	第二内科
American Journal of Hematology	Chronic thrombopoietin overexpression induces mesangioproliferative glomerulopathy in mice.	Shimoda H	第二内科
European Journal of Haematology	Distinctive expression of myelomonocytic markers and down-regulation of CD34 in acute myelogenous leukaemia with FLT3 tandem duplication and nucleophosmin mutation.	Shimoda K	第二内科
Journal of Immunology	Signal-transducing adaptor protein-2 regulates integrin-mediated T cell adhesion through protein degradation of focal adhesion kinase.	Shimoda K	第二内科
Journal of Gastroenterology	Alanine aminotransferase flare-up in hepatitis C virus carriers with persistently normal alanine aminotransferase levels in a hyperendemic area of Japan.	Uto H	第二内科
Biochemical and Biophysical Research Communications	Transgenic expression of osteoactivin in the liver attenuates hepatic fibrosis in rats.	Abe H	第二内科

- (注) 1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2. 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度医療技術の開発及び評価の実績

### 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者名	所属部門
Hepatology	Early diagnostic potential for hepatocellular carcinoma using the SELDI proteinChip system.	Kanmura S	第二内科
Journal of Immunology	Tyk2 signaling in host environment plays an important role in contraction of antigen-specific CD8+ T cells following a microbial infection.	Shimoda K	第二内科
International Journal of Hematology	The effect of anabolic steroids on anemia in myelofibrosis with myeloid metaplasia: Retrospective analysis of 39 patients in Japan.	Shimoda K	第二内科
Journal of Clinical Investigation	Pten controls lung morphogenesis, bronchioalveolar stem cells, and onset of lung adenocarcinomas in mice.	Yanagi S	第三内科
Journal of Biological Chemistry	Peptidomic identification and biological validation of neuroendocrine regulatory peptide-1 and -2.	Yamaguchi H	第三内科
Mechanisms of Ageing and Development	Ghrelin stimulates growth hormone secretion and food intake in aged rats.	Toshinai K	第三内科

- (注) 1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2. 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度医療技術の開発及び評価の実績

### 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者名	所属部門
Clinical Microbiology and Infection	Significance of human beta-defensins in the epithelial lining fluid of patients with chronic lower respiratory tract infections.	Yanagi S	第三内科
Regulatory Peptides	The role of PYY in feeding regulation.	Ueno H	第三内科
Hormone and Metabolic Research	Acute incremental exercise decreases plasma ghrelin level in healthy men.	Toshinai K	第三内科
Diabetes Research and Clinical Practice	Oral pioglitazone administration increases food intake through ghrelin-independent pathway in Zucker fatty rat.	Saitoh Y	第三内科
Respiration	Elevated levels of beta-D-glucan in bronchoalveolar lavage fluid in patients with farmer's lung in Miyazaki, Japan.	Ashitani J	第三内科
Respirology	Elevated alpha-defensin levels in plasma of patients with pulmonary sarcoidosis.	Ashitani J	第三内科

- (注) 1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2. 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度医療技術の開発及び評価の実績

### 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者名	所属部門
Endocrine Journal	Plasma ghrelin concentrations in different clinical stages of diabetic complications and glycemic control in Japanese diabetics.	Ueno H	第三内科
American Journal of Transplantation	Characterization of urinary peptide biomarkers of acute rejection in renal allografts.	Yanagi S	第三内科
Regulatory Peptides	Cardiovascular actions of central neuropeptide W in conscious rats.	Nakazato M	第三内科
Neuroscience Letters	Effects of intracerebroventricular administration of neuropeptide W30 on neurons in the hypothalamic paraventricular nucleus in the conscious rat.	Nakazato M	第三内科
Respiratory Medicine	Elevated BALF concentrations of alpha- and beta-defensins in patients with pulmonary alveolar proteinosis.	Yanagi S	第三内科
Respiratory Medicine	Association of plasma neutrophil elastase levels with other inflammatory mediators and clinical features in adult patients with moderate and severe pneumonia.	Nakazato M	第三内科

- (注) 1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2. 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度医療技術の開発及び評価の実績

### 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者名	所属部門
Pulmonary Pharmacology & Therapeutics	Long-term treatment with theophylline reduces neutrophils, interleukin-8 and tumor necrosis factor- $\alpha$ in the sputum of patients with chronic obstructive pulmonary disease.	Ashitani J	第三内科
Journal of Infect Chemother	An outbreak of Legionnaires' disease associated with a circulating bathwater system at a public bathhouse. II: radiological findings of pneumonia.	Matsumoto N	第三内科
International Journal of Cancer	Engraftment of peripheral blood mononuclear cells from human T-lymphotropic virus Type 1 carriers in NOD/SCID/gammac(null) (NOG) mice.	Takajo I	膠原病・感染症内科
Journal of Infect Chemother	An outbreak of Legionnaires' disease associated with a circulating bathwater system at a public bathhouse. I: a clinical analysis.	Sasaki T	膠原病・感染症内科
International Journal of Hematology	Successful treatment of chronic granulomatous disease with fludarabine-based reduced-intensity conditioning and unrelated bone marrow transplantation.	Mizukami T	小児科
Gut	Enhanced expression of hepatocyte growth factor activator inhibitor type 2-related small peptide (H2RSP) at the invasive front of colon cancers.	Uchiyama S	第一外科

- (注) 1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2. 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度医療技術の開発及び評価の実績

### 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者名	所属部門
Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery	Outcome of radical surgery for stage IV gallbladder carcinoma.	Chijiwa K	第一外科
Hepato-Gastroenterology	Vertical retrocolic duodenojejunostomy decreases delayed gastric emptying after pylorus-preserving pancreateoduodenectomy.	Chijiwa K	第一外科
Hepato-Gastroenterology	Comparison of seven prognostic staging systems in patients who undergo hepatectomy for hepatocellular carcinoma.	Kondo K	第一外科
Journal of Gastrointestinal Surgery	Acurative resection improves the postoperative surgical rate even in patients with advanced gallbladder carcinoma.	Kai M	第一外科
脾臓	脾石症に対する体外衝撃波結石破碎療法(ESWL)	甲斐 真弘	第一外科
Surgical Endoscopy	Role of intraoperative enteroscopy for surgical decision making with Crohn's disease.	Hotokezaka M	第一外科

- (注) 1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2. 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度医療技術の開発及び評価の実績

### 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者名	所属部門
Surgical Laparoscopy, Endoscopy & Percutaneous Techniques	Intraoperative enteroscopy in minimally invasive surgery.	Hotokezaka M	第一外科
World Journal of Surgery	Sex difference in survival of patients treated by surgical resection for esophageal cancer.	Hidaka H	第一外科
Hepato-Gastroenterology	Pylorus-preserving pancreateoduodenectomy: preoperative pancreatic function and outcome.	Ohuchida J	第一外科
Journal of HBP Surgery	Two-stage operation for hepatocellular carcinoma with synchronous bilateral adrenal gland metastasis.	Kondo K	第一外科
西日本脊椎研究会誌	棘突起縦割式脊柱管拡大術の術後成績とHAスペーサーの改良	濱中 秀昭	整形外科
西日本脊椎研究会誌	椎弓根スクリューを用いた頸椎後方固定術の経験	久保 紳一郎	整形外科

- (注) 1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2. 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度医療技術の開発及び評価の実績

### 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者名	所属部門
西日本脊椎研究会誌	腰部脊柱管狭窄症に対する顕微鏡視下拡大開窓術の術後成績	桐谷 力	整形外科
整形外科と災害外科	肩関節脱臼後に腋窩神経麻痺を伴った腱板広範囲断裂の治療経験	石田 康行	整形外科
整形外科と災害外科	直腸肛門内圧測定が予後予測に有用であった仙骨骨折の1例	菅田 耕	整形外科
整形外科と災害外科	MRIにて腫瘍性病変が疑われた胸腰椎圧迫骨折の一例	帖佐 悅男	整形外科
整形外科と災害外科	骨線維性異形成(OFD)に対し巨大骨欠損を $\beta$ -TCPのみにて補填した3例	比嘉 聖	整形外科
西日本皮膚科	右肩関節結核に伴う腋窩皮膚腺病の1例	菊池 英維	皮膚科

- (注) 1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2. 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度医療技術の開発及び評価の実績

### 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者名	所属部門
International Journal of Dermatology	Two Japanese cases of lichen planus pigmentosus-inversus.	Kashima A	皮膚科
西日本泌尿器科	九州沖縄地区における再燃前立腺癌治療の実態-泌尿器科医に対するアンケート調査	蓮井 良浩	泌尿器科
Cancer Science	Clinical relevance of hepsin and hepatocyte growth factor activator inhibitor type 2 expression in renal cell carcinoma.	Betsunoh H	泌尿器科
International Journal of Urology	Usefulness of oral wash specimens for detecting Chlamydia trachomatis from high-risk groups in Japan.	Hamasuna R	泌尿器科
西日本泌尿器科	九州地方における腎血管筋脂肪腫の臨床的検討－第14回九州泌尿器科共同研究－	長田 幸夫	泌尿器科
Journal of Clinical Microbiology	Isolation of Mycoplasma genitalium from First-Void Urine Specimens by Coculture with Vero Cells.	Hamasuna R	泌尿器科

- (注) 1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2. 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度医療技術の開発及び評価の実績

### 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者名	所属部門
FEBS Journal	Activation of hepatocyte growth factor activator zymogen (pro-HGFA) by human kallikrein 1-related peptidases.	Mukai S	泌尿器科
The Journal of Urology	Prevention of Recurrence With Epirubicin and Lactobacillus Casei After Transurethral Resection of Bladder Cancer.	Hasui Y	泌尿器科
神経眼科	先天眼球運動失行症の病変は小脳虫部にあるのか	中馬 秀樹	眼科
臨床眼科	加齢黄斑変性に対する光線力学療法の視力予後に関与する因子の検討	小澤 摩記	眼科
あたらしい眼科	視神経炎アップデート	中馬 秀樹	眼科
臨床眼科	白内障術後に悪化をみた加齢黄斑変性に対する光線力学療法	中馬 智巳	眼科

- (注) 1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2. 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

# 高度医療技術の開発及び評価の実績

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者名	所属部門
Otology Japan	Prestin, motor protein in mammalian OHC Relationship between nonlinear capacitance in vitro and hearing in vivo.	Matsuda K	耳鼻咽喉科
Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America	Prestin-based outer hair cell electromotility in knockin mice does not appear to adjust the operating point of a cilia-based amplifier.	Matsuda K	耳鼻咽喉科
European Archives of Oto-Rhino-Laryngology	Involvement of Epstein-Barr virus (EBV)-encoded latent memberane protein (LMP)-1 in the potentiation of C? mRNA expression in human tonsil-derived cells.	Tono T	耳鼻咽喉科
Laryngoscope	Pneumococcal peptidoglycan – polysaccharides induce the expression of interleukin-8 in airway epithelial cells by way of nuclear factor- $\kappa$ B, nuclear factor-6, or activation protein-1 dependent mechanisms.	Tsuchiya K	耳鼻咽喉科
日本気管食道科学 会会誌	気道異物が疑われたscimitar症候群の一例	奥田 匠	耳鼻咽喉科
日本耳鼻咽喉科学 会会誌	中耳真珠腫診断におけるMRI拡散強調像 の有用性	長井 慎成	耳鼻咽喉科

- (注) 1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として前年度に発表したものの中、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2. 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度医療技術の開発及び評価の実績

### 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者名	所属部門
頭頸部外科	S状静脈洞前方突出例に対する人工内耳手術の経験	河野 浩万	耳鼻咽喉科
The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research	Regional population-based study on pregnancy outcomes in women with diabetes mellitus in Japan.	Sameshima H	産科婦人科
Japan Herpesvirus Infections Forum	胎内サイトメガロウイルス(CMV)感染児におけるIgG抗体Avidity Indexの推移とその有用性	金子 政時	産科婦人科
日本産婦人科・新生児血液学会誌	風疹抗体保有妊婦における妊娠中風疹再感染と抗体反応	金子 政時	産科婦人科
Herpes Management	胎内サイトメガロウイルス感染症児IgG抗体 Avidity Indexの推移と臨床経過	金子 政時	産科婦人科
Journal of Obstetrics and Gynaecology Research	Circulatory disturbances during the first postnatal 24 hours in extremely premature infants 25 weeks or less of gestation with histological fetal inflammation.	Sameshima H	産科婦人科

- (注) 1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2. 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度医療技術の開発及び評価の実績

### 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者名	所属部門
Obstetrics and Gynecology	Pregnancy-Induced Hemolytic Anemia With a Possible Immune-Related Mechanism.	Sameshima H	産科婦人科
日本産婦人科・新生児血液学会誌	前置胎盤症例における癒着胎盤の画像評価	土井 宏太郎	産科婦人科
Early Human Development	Developmental effects on neonatal mortality and subsequent cerebral palsy in infants exposed to intrauterine infection.	Sameshima H	産科婦人科
Early Human Development	Risk factors for perinatal deaths in Southern Japan: Population-based analysis from 1998 to 2005.	Sameshima H	産科婦人科
Journal of Obstetrics and Gynaecology Research	Antithrombin improves fetal condition in women with severe pre-eclampsia before 32 weeks of gestation; a randomized, double-blind, placebo-controlled trial.	Sameshima H	産科婦人科
日本遺伝カウンセリング学会誌	多発性内分泌腫瘍症(MEN)が疑われた患者とその家族の遺伝カウンセリング	山口 昌俊	産科婦人科

- (注) 1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2. 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度医療技術の開発及び評価の実績

### 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者名	所属部門
日本周産期・新生児医学会雑誌	MD-Twin Score による一絨毛膜二羊膜性双胎児の胎児評価	金子 政時	産科婦人科
Journal of Obstetrics and Gynaecology Research	Fetal manifestations and poor outcomes of congenital cytomegalovirus infections: Possible candidates for intrauterine antiviral treatments.	Sameshima H	産科婦人科
臨床放射線	真珠腫の診断におけるsingle-shot EPI拡散強調像の検討	小玉 隆男	放射線科
Annals of Nuclear Medicine	Assessment of diastolic function using 16-frame 201Tl gated myocardial perfusion SPECT:a comparative study of QGS2 and pFAST2.	Nagamachi S	放射線科
Anesthesia and Analgesia	Prolongation of intrathecal and sciatic nerve blocks using a complex of levobupivacaine with maltosyl- $\beta$ -cyclodextrin in rats.	Taniguchi M	麻酔科
Anesthesiology	Activation of a G protein-coupled inwardly rectifying K <sup>+</sup> current and suppression of I <sub>h</sub> contribute to dexmedetomidine-induced inhibition of rat hypothalamic paraventricular nucleus neurons.	Shirasaka T	麻酔科

- (注) 1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2. 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度医療技術の開発及び評価の実績

### 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者名	所属部門
Anesthesia and Analgesia	The effects of centrally administered dexmedetomidine on cardiovascular and sympathetic function in conscious rats.	Shirasaka T	麻酔科
Journal of Neurochemistry	Glycogen synthase kinase-3 $\beta$ : homologous regulation of cell surface insulin receptor level via controlling insulin receptor mRNA stability in adrenal chromaffin cells.	Maruta T	麻酔科
Neuropharmacology	Lithium inhibits function of voltage-dependent sodium channels and catecholamine secretion independent of glycogen synthase kinase-3 in adrenal chromaffin cells.	Maruta T	麻酔科
Journal of Anesthesia	Neurotoxicity of local anesthetics shown by morphological changes and changes in intracellular $Ca^{2+}$ concentration in cultured neurons of Lymnaea stagnalis.	Kasaba T	麻酔科
麻酔	水棲かたつむりの中核神経細胞を用いたりドカイン群発発射に関する研究	笠羽 敏治	麻酔科
Neuroradiology	Preoperative cellulose porous beads for therapeutic embolization of meningioma: Provocation test and technical considerations.	Takeshima H	脳神経外科

- (注) 1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2. 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度医療技術の開発及び評価の実績

### 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者名	所属部門
American Journal of Neuroradiology	Multiple prominent dilated perivascular spaces do not induce Wallerian degeneration as evaluated by DTI.	Takeshima H	脳神経外科
Surgical Neurology	Treatment strategy for giant aneurysms in the cavernous portion of the internal carotid artery.	Takeshima H	脳神経外科
Pediatric Neurosurgery	Evaluation of residual tissues after adjuvant therapy in germ cell tumors.	Takeshima H	脳神経外科
Surgical Neurology	Sellar repair with resorbable polyglactin acid sheet and fibrin glue in endoscopic endonasal transsphenoidal surgery.	Takeshima H	脳神経外科
Neurosurgery	Clinical significance of ABCA2, a possible molecular marker for oligodendrogiomas.	Takeshima H	脳神経外科
Neurologia Medico-Chirurgica	Single nucleotide polymorphism 309 affects murin-double-minute 2 protein expression but not glioma tumorigenesis.	Takeshima H	脳神経外科

- (注) 1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2. 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度医療技術の開発及び評価の実績

### 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者名	所属部門
Neurologia Medico-Chirurgica	Complete response to temozolomide treatment in an elderly patient with recurrent primary central nervous system lymphoma—case report	Takeshima H	脳神経外科
Surgical Neurology	Secondary cervical dystonia following stereotactic radiosurgery in a patient with thalamic glioma.	Takeshima H	脳神経外科
Neurologia Medico-Chirurgica	Intraneuronal Synovial Sarcoma Originating From the Median Nerve—case report.	Uehara H	脳神経外科
Anticancer Research	Effect of copper and role of the copper transporters ATP7A and CTR1 in intracellular accumulation of cisplatin.	Kurokawa H	歯科口腔外科
American Journal of Orthodontics and Dentofacial Orthopedics	Acceleration of orthodontic tooth movement by alveolar corticotomy in the dog.	Sakoda S	歯科口腔外科
Journal of Dental Research	Force-induced IL-8 from periodontal ligament cells requires IL-1beta.	Soejima K	歯科口腔外科

- (注) 1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2. 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度医療技術の開発及び評価の実績

### 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者名	所属部門
日本口腔腫瘍学会誌	アンケート調査よりみた舌扁平上皮癌治療の現状と問題点	迫田 隅男	歯科口腔外科
Journal of Biological Chemistry	Silencing of insulin-like growth factor binding protein-2 (IGFBP-2) in human glioblastoma cells reduces both invasiveness and expression of progression-associated gene CD24.	Fukushima T	病理部
Biology of Reproduction	The cytotrophoblasts layer of human chorionic villi becomes thinner but maintains its structural integrity during gestation.	Kataoka H	病理部
Human Cell	Role of Kunitz domains in anti-invasive effect of hepatocyte growth factor activator inhibitor type 1 in human glioblastoma cells.	Fukushima T	病理部
Cancer Science	Soy derived isoflavones inhibit the growth of adult T-cell leukemia cells in vitro and in vivo.	Hatakeyama K	病理部
日本臨床細胞学会九州連合会雑誌	胸水・心嚢水細胞診におけるNapsin A免疫細胞染色の有用性	佐藤 啓司	検査部

- (注) 1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2. 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 高度医療技術の開発及び評価の実績

### 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者名	所属部門
Cancer Chemotherapy and Pharmacology	Adsorption of irinotecan onto oral adsorbent AST-120 (Kremezin(TM)) for preventing delayed diarrhea.	Arimori K	薬剤部
日本病院薬剤師会誌	実務実習教育における医療施設と大学との連携とその評価－医療施設への大学教員の派遣－	有森 和彦	薬剤部
Human Molecular Genetics	Molecular mechanisms responsible for aberrant splicing of SERCA1 in myotonic dystrophy type 1.	Sekiya H	薬剤部
薬学雑誌	薬剤師に必要な蛋白結合置換術	有森 和彦	薬剤部
Drug Metabolism and Disposition	Effects of pomegranate juice on human cytochrome P450 2C9 and tolbutamide pharmacokinetics in rats.	Arimori K	薬剤部

計 119 件

- (注) 1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として前年度に発表したものの中、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2. 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第12)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 高崎 真弓
管理担当者氏名	放射線部長 田村正三、薬剤部長 有森和彦、総務課長 小野 潔

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録		各診療科	<ul style="list-style-type: none"> <li>カルテは外来、入院別に1患者1ファイル方式のID番号順で分類</li> <li>エックス線写真は1患者1ファイル方式のID番号順で分類</li> </ul>
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	なし	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部	
確規保則の第9条の23及び第11各号に掲げる体制	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医事課	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課	
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の状況	医療安全管理部	

		保管場所	分類方法
病院の管理 及び運営に 関する諸記 録	規則 第1条 の1 各号 に掲 げ る 体制 確保 の状 況	院内感染のための指 針の策定状況	医療安全管理部
		院内感染対策のため の委員会の開催状況	医療安全管理部
		従業者に対する院内 感染対策のための研修 の実施状況	医療安全管理部
		感染症の発生状況の 報告その他の院内感染 対策の推進を目的とし た改善のための方策の 実施状況	医療安全管理部
		医薬品の使用に係る 安全な管理のための責 任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬 品の安全使用のための 研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用の ための業務に関する手 順書の作成及び当該手 順書に基づく業務の実 施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用の ために必要となる情報 の収集その他の医薬品 の安全使用を目的とし た改善のための方策の 実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用 のための責任者の配置 状況	ME機器センター
		従業者に対する医療 機器の安全使用のため の研修の実施状況	ME機器センター
		医療機器の保守点検 に関する計画の策定及 び保守点検の実施状況	ME機器センター
		医療機器の安全使用 のために必要となる情 報の収集その他の医療 機器の安全使用を目的 とした改善のための方 策の実施状況	ME機器センター

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 高崎 真弓
閲覧担当者氏名	総務課長 小野 潔
閲覧の求めに応じる場所	第三会議室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数	延	0	件
閲 覧 者 別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地 方 公 共 団 体	延	0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹 介 率	7 9 . 4 %	算 定 期 間	平成19年 4月 1日～平成20年 3月31日
算 A : 紹 介 患 者 の 数		8,180	人
出 B : 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		4,806	人
根 C : 救急用自動車によって搬入された患者の数		440	人
拠 D : 初 診 の 患 者 の 数		12,097	人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第13-2)

### 規則第9条の23及び第1条の11各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> ( 有 ) ( 1 名 ) • 無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> ( 有 ) ( 1 名 ) • 無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	<input checked="" type="radio"/> ( 有 ) 無
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 所属職員： 専任（ 1 ）名 兼任（ 6 ）名</li><li>・ 活動の主な内容：</li></ul>	
<ol style="list-style-type: none"><li>1. 宮崎大学医学部附属病院医療安全管理委員会（以下、「委員会」という。）の運営に関すること。</li><li>2. インシデント及び医療事故の原因究明状況の確認及び指導に関すること。</li><li>3. インシデント及び医療事故に関する診療録、看護記録等への記載内容の確認及び指導に関すること。</li><li>4. インシデント及び医療事故の発生時における患者又は家族等への対応状況の確認及び指導に関すること。</li><li>5. 患者からの医療に係る相談に関すること。</li><li>6. インシデント及び医療事故の調査及び分析に関すること。</li><li>7. 医療安全に係る情報提供及び連絡調整に関すること。</li><li>8. 医療安全のための教育・研修に関すること。</li><li>9. 医療事故防止対策マニュアルに関すること。</li><li>10. 委員会での決定事項の実施状況調査及び分析に関すること。</li><li>11. 医療安全のための啓発、勧告、改善命令に関すること。</li><li>12. その他医療事故防止及び医療の安全管理に関すること。</li></ol>	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 指針の主な内容：</li></ul> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 医療に係る安全管理の基本的考え方</li><li>2. 医療に係る安全管理体制</li><li>3. 職員研修</li><li>4. 事故報告等の医療安全確保を目的とした改善方策</li><li>5. 医療上の事故等発生時の対応</li><li>6. マニュアルの作成</li><li>7. 患者等との情報の共有</li><li>8. 患者からの相談への対応</li><li>9. その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li></ol>	
⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 活動の主な内容：</li></ul> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 医療事故防止のための具体的措置に関すること。</li><li>2. 医療事故防止対策マニュアルに関すること。</li><li>3. 医療安全に係る職員の教育及び研修に関すること。</li><li>4. 医療訴訟発生時の原因の分析究明、改善策の立案・実施及び職員への周知に関するこ</li><li>5. 改善策の実施状況調査及び見直しに関するこ</li><li>6. 医療事故等発生時の家族や患者への対応状況に関するこ</li><li>7. インシデントレポート及び事故報告書の分析に関するこ</li></ol>	

- 8. 医療安全管理部の業務に関すること。
- 9. 医薬品に係る安全管理のための体制の確保に関すること。
- 10. 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に関すること。
- 11. その他医療事故等及び医療訴訟に関すること。

⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年43回
--------------------------	------

- ・ 研修の主な内容 :
- 1. 全体研修 : 事故防止のための実践活動、医療・看護の安全対策 (2回)
- 2. ビデオ講習会 : 全体研修に出席できなかつた者への補講 (2回)
- 3. 新規採用者研修 : リスク管理の基本、安全管理体制等 (2回)
- 4. 中途採用者研修 : リスク管理の基本、安全管理体制等 (10回)
- 5. 新人リスクマネージャー研修 : リスク管理の基本、安全管理体制等 (1回)
- 6. 各部署との勉強会 : リスクセンス、安全管理の視点、部署毎の事例と対策 (22回)
- 7. BLS研修 : 一次救命処置、AEDの取り扱い (4回)

⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の状況
-------------------------------------------

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有 無 )
- ・ その他の改善の方策の主な内容 :
- 1. リスクマネージャー会での事例報告及び周知
- 2. 作業標準の作成
- 3. 医療事故防止対策マニュアルの見直し
- 4. 薬剤管理の抜き打ち調査
- 5. 院内ラウンド

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容 :</li> </ul> <p>1. 院内感染対策に対する基本的な考え方      2. 委員会等の組織に関する基本的事項      3. 職員研修に関する基本方針      4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針      5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針      6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針      7. その他の院内感染対策の推進のために必要な基本方針</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容 :</li> </ul> <p>1. 感染の予防に関すること。      2. 感染の情報の収集に関すること。      3. 感染源の追求等のための検査の実施に関すること。      4. 防疫対策に確立に関すること。      5. その他感染対策についての重要事項に関すること。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 0 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容 :</li> </ul> <p>1. 全体研修：患者とそこに働く医療従事者のための病院建築設計、院内感染対策と I C (2回)      2. ビデオ講習会：全体研修に出席できなかった者への補講 (2回)      3. リンクナース会：感染対策の実施状況の確認、ミニレクチャー等 (3回)      4. 新規リンクナース材料部実習 (4回)      5. 新規採用者オリエンテーション：感染対策の基本          (対象：職員全体、看護師、研修医) (各1回ずつ 計3回)      6. 中途採用者オリエンテーション：感染対策の基本 (対象：看護師) (4回)      7. 委託業者教育：感染性廃棄物の取り扱いおよび清掃について： (2回)</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院における発生状況の報告等の整備</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容 :</li> </ul> <p>1. 感染対策合同会議での事例報告及び周知      2. 感染対策マニュアルの見直し      3. 院内ラウンド (定期・臨時)</p>	(有)・無 )

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年3回
<ul style="list-style-type: none"> <li>研修の主な内容：           <ul style="list-style-type: none"> <li>5月 医療安全管理講演会開催・薬剤関連の事故防止等について</li> <li>7月 医療安全管理講演会開催、抗菌薬の適正使用について</li> <li>8月 静脈注射に用いられる薬剤の基礎知識と管理について</li> </ul> </li> </ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>手順書の作成 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無</li> <li>業務の主な内容：</li> </ul> <p>業務手順書に基づいて業務が実施されているかチェック表を用いて確認を行った。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>医薬品に係る情報の収集の整備 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無</li> <li>その他の改善の方策の主な内容：</li> </ul> <p>業務手順書は作成後、各部門へ1部づつ配布していたが、同手順書の周知を徹底するために、院内コンピューターネットワークの「First Class」及び「カムナビ」にも掲載し職員がいつでも閲覧できるようにした。また業務手順書の改訂を行った。</p>	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	( <input checked="" type="radio"/> 有・無 )
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 <input type="text"/> 回 適宜
<ul style="list-style-type: none"> <li>研修の主な内容： 医療法の一部改正を受けて、医療機器安全管理取扱要領（別添）を設け院内へ周知している。その要領のなかで、医療機器安全管理責任者はME機器センター長を充て、さらに検査部、放射線部、薬剤部、ME機器センターに、医療機器安全管理副責任者を設けた。副責任者の下、特定機能病院として、特に安全使用に際し技術の習熟が必要と考えられる7種の医療機器の他、新規または研修の必要性を認める医療機器の研修の計画の策定及び研修を実施している。</li> </ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>計画の策定 ( <input checked="" type="radio"/> 有・無 )</li> <li>保守点検の主な内容： 医療法の一部改正を受けて、医療機器安全管理取扱要領（別添）を設け院内へ周知している。その要領のなかで、医療機器安全管理責任者はME機器センター長を充て、さらに検査部、放射線部、薬剤部、ME機器センターに、医療機器安全管理副責任者を設けた。副責任者の下、特定機能病院として、特に安全使用に際し技術の習熟が必要と考えられる7種の医療機器の他、保守・点検の必要性を認める医療機器の保守・点検の計画の策定及び保守・点検を実施している。</li> </ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>医療機器に係る情報の収集の整備 ( <input checked="" type="radio"/> 有・無 )</li> <li>その他の改善の方策の主な内容： 医療法の一部改正を受けて、医療機器安全管理取扱要領（別添）を設け院内へ周知している。その要領のなかで、医療機器安全管理責任者はME機器センター長を充て、さらに検査部、放射線部、薬剤部、ME機器センターに、医療機器安全管理副責任者を設けた。副責任者の下、医療機器の添付文書、取扱説明書等の整理保管を行うこととしている。また、医療機器の不具合情報や安全情報等の安全使用のために必要な情報を製造販売業者等から一元的に収集し、得られた情報を当該医療機器に携わる者への適切な提供を行っている。</li> </ul>	